日本農業新聞

信越 ワイド1　2023年(令和5年)2月25日(土曜日)

多様な農業 活性化学ぶ

新潟県長岡市 NPO法人UNE 農福連携フォーラム

【新潟県央】農業を通じて障害者福祉に取り組む長岡市のNPO法人UNEは2月中旬、「農福連携フォーラム」を開いた。テーマは「地域資源への気づきと農業の仕事づくり」。中山間地域の不利な条件下で多様な農業を展開する事例から学び、新しい農村の姿を探った。

農水省は、6次産業化の考え方を広げ、地域資源を活用し他分野の参画で新たな価値を創る「農山漁村発イノベーション」の取り組みを推進している。1次産業に地域住民や2次産業が参画し、中山間地域を活性化させる取り組みだ。今回のフォーラムでは、この考え方をテーマに盛り込んだ。

フォーラムには、中山間地で活躍する組織や団体などの関係者ら51人が参加した。

講演では、十日町市のNPO法人越後妻有里山協働機構の農業チームが、取り組みを紹介。「大地の芸術祭」でのアート作品と棚田の保全活動、農業イベントについて話した。

移住者で農業経験のないスタッフが米作りで都市住民と交流を深めたり、女子サッカーチームのFC越後妻有の選手が「半農半スポーツ」を展開したりなど、地域を活気づけている様子を語った。

事例報告では、NPO法人UNEが「採取農業」を紹介。ヨモギやササ、クロモジといった里山の資源を活用して所得確保につなげる「農業での仕事づくり」について話した。

「採取農業」は農福連携の取り組みで、8年目となる。JAえちご中越(旧JA越後ながおか栃尾地域営農センター)の協力で出荷者を増やし、製品技術や有利販売で生産拡大に結び付けている。今後は、ドクダミとイチョウ葉の採取も予定しているという。

UNE代表の家老洋さん(65)は「自然環境を利点として最大限に生かし、工夫して中山間地域の課題解決に取り組んでいく」と話した。